

- ・ 患者がオフにすると危険である。
- ・ 意識障害患者が多いため。
- ・ 簡単に操作できては安全が確保できないため。
- ・ 患者が勝手に操作できると困る。
- ・ 患者が操作して、転倒されたり、離床されたりすることがあった。
- ・ 認知症の患者に使用するため。
- ・ 操作を覚えて、自分でオフにすると意味がないので。
- ・ Ptがオフにすれば、使用している意味がない。
- ・ 患者が操作をすることで、安心が出来ない。センサーの意味がない。
- ・ オンになってないとセンサーの使用意味がないため。確認は常に必要にて。
- ・ 有効に作動できる様に人がさわっても作動できること。
- ・ 現在うーご君使用しているが使い方を患者が気づくことあり。
- ・ 患者が自分ではずせたらセンサーの意味がない。
- ・ 患者が勝手に off すると、転倒・転落を予防できない。
- ・ 安全管理の上で大切。
- ・ ON/OFF の操作が簡便で、いじってしまう Pt がいる。
- ・ 簡単に on/off の操作ができると看護師が把握できない。
- ・ Pt が OFF にできてしまうと、センサー設置している意味がないため。
- ・ Pt 自身が操作を覚えると事故を未然に防げなくなる可能性があるため。
- ・ 勝手な操作で転落等を見逃す可能性があるから。
- ・ 使用目的が達成できるように。
- ・ 患者様が勝手に調節できないこと。
- ・ 現在使っているタイプは Pt が操作できてしまい、知らないうちにベッドから離れてしまうことがある。

10. 反応感度が高いこと

- ・ すぐに対応できるように。
- ・ 患者の体動をできるだけ適切に感知するため。
- ・ 早期対応が可能。
- ・ 感度が高い。
- ・ 絶対安静の患者に必要。
- ・ 患者の安全確保のために（しかし感度が高いと少し動いただけでも鳴ることにはなる）。
- ・ 危険度の高い Pt 様の行動を早く察知でき、転倒・転落など未然に防げる。
- ・ 反応感度は良い。
- ・ 危険を速やかにキャッチ出来る。
- ・ 離れた場合、すぐ反応する。
- ・ 感度が高い方が良い。
- ・ 患者の動作によって反応の違いがないようにしてほしい。
- ・ 離床にすぐに反応しないと対応が遅れが出て危険。
- ・ 離床を早期に発見し、対応するため。
- ・ 事故を未然に防ぐ為にも反応しやすい方が良い。
- ・ 感度が良く安心できる。
- ・ ナースステーションより離れた部屋で使用する場合、感度が悪いとすでに体動していることがあり、対応できない。
- ・ NsCall と連動できているので、管理しやすい。
- ・ 患者の動きによりセンサー感知して Call なるので、より早い事故防止ができる。
- ・ 少しのことでも感知するほうがアクシデントにつながるリスクをへらせる。
- ・ 鳴ってすぐ行っても部屋が遠いところもあるため。
- ・ 感度が悪いと危険。
- ・ せっかく設置しても反応作動しなければ無イミだから。
- ・ 反応が遅いのでは危険予防できない。
- ・ 感知しないと困る。
- ・ 感度が低いと離床しても鳴らないため。
- ・ 患者の体動がキャッチしやすいため。
- ・ 事故防止のためには早い対応が必要。
- ・ センサーが鳴って、駆けつけても既に転落していたことがあるため。
- ・ 即、対応しなければならないから。

11. 反応感度の調整ができること

- ・ いろいろな動作を確認し、かつ調整が出来ることは、行動範囲が分かると思うため。
- ・ 取り扱い方法により、便利に使用でき、危険を避けることができる。
- ・ 患者の状況に応じて、感度の調整ができるのは便利である。
- ・ 少しの体動で鳴ってしまうことがある。
- ・ 身体の向きを変えただけで、作動することがある。
- ・ ちょっとした寝返り等でも鳴ってしまうから。
- ・ 寝返りや少しの体動でも反応してしまうため。
- ・ 少しの動きで鳴るので。
- ・ 患者毎に離床の程度によって危険度が異なるため。

- ・ 少し動いただけでもコールが鳴ってしまうので。
 - ・ 患者の動きが鋭敏な人には早く、動作がゆっくり、又は寝返りのみには反応がゆるやかにするなど反応速度が調節できると良い。
 - ・ NSがのっても鳴らないように。
 - ・ 常にアラームがなっていると、注意が散漫になる。
 - ・ その患者の動作により調整できると都合がよい。
 - ・ 感度が良すぎるとかえって使用しづらくなるため。
 - ・ 無駄にナースコールが鳴ると業務の支障となる（寝返りで鳴るなど）。
 - ・ 患者により行動が異なるため。
 - ・ 軽・重によって反応の調整ができること。
12. 反応音の調整ができること
- ・ アラーム音が、音声設定もできる。
 - ・ 昼夜同じ音がすると騒音になるので、夜間は音をやや小さくできた方がよい。
 - ・ 騒音になり患者及び他の患者の安静が障害される。
 - ・ 夜・昼の音が調整必要。
 - ・ 夜間などの調整ができる。
 - ・ 他のナースコールと区別したい。頻回に鳴る時、周囲のPtへ迷惑となるから。パイプも良い。
13. 硬さや厚みなどで、寝心地に不快感を与えないこと
- ・ 患者様にとって、快適であること。
 - ・ 安静、良眠が保てるよう。
 - ・ 患者様の安静妨げる要因となり不穩を助長させてしまう。
 - ・ 寝心地が悪いことによる不眠・不穩のリスクが高くなる。
 - ・ 夜勤帯に使用する場合、少ない人数で設置の確認が出来るもの。
 - ・ 患者様から寝心地についてクレームはない。
 - ・ 患者様から寝心地についてクレームはない。
 - ・ 患者に不快感を与えるものは、出来る限り使用したくない。
 - ・ 患者の安静の妨げにならないように。
 - ・ 不快感で眠れないと困る。
 - ・ 患者に不快感を与えては、不適。
 - ・ センサー自体が不快だと、患者の安全に対してはいいが、安楽が阻害され効果的ではない。
 - ・ 装着することで患者が不快感を感じ、いじってしまうため。
 - ・ 不快感があれば、必ずPtはオフを工夫する。
 - ・ 褥瘡のリスクを減らすため。
 - ・ 寝心地が悪いとPtの受け入れが悪い。
 - ・ 褥瘡等の予防のため。
 - ・ 不快感があるとかえって患者の危険行動を招く事があるため。
 - ・ 手軽に必要な時に必要な人に利用したいため。
 - ・ 自分で外してしまわないように。
 - ・ 患者の使いやすい事が最も大切だと思う。
 - ・ 患者の安楽。
 - ・ 拒否や不穩助長の原因になるから。
 - ・ 褥創発生のリスクになる。
 - ・ 動きに反応するよう、腰の位置に敷くので、気にならない方がよいから。
 - ・ 患者が気づいて不快だと設置できない。
 - ・ 患者に気づかれずにセンサーが使用できるため。
 - ・ 不快だとつかかない。
 - ・ 離床センサーを使用している事で眠れなかったり、床ずれができたのでは逆効果である。
 - ・ 患者様に不快感を与えないために必要。
 - ・ Ptさんが、センサーを入れると、寝心地が悪いと言うので。
 - ・ よけいに不穩になったら困る。褥瘡予防
 - ・ 体動が困難な患者に使用する場合、褥瘡皮膚トラブルの原因になるため。
 - ・ Ptが不快に思うとよくないから。
 - ・ 硬さなどでPtが起きてしまうことがある。
 - ・ 患者に不快感を与えない様にするのは最優先される内容。
 - ・ 安楽であること。
14. 清掃が簡便なこと
- ・ デスポではないため。
 - ・ 複数の患者様が次々に使われるので。
 - ・ 汚れにくい。
 - ・ 繰り返し使いたいため。
 - ・ 汚染される可能性が高い。
 - ・ 排尿したり汚れ激しい。
 - ・ ほこりがたまりにくくてよい。

資料 1-4 離床センサーへの不満・改善要求意見・一覧表

□不必要な反応が多い

- 患者さんが身体の向きを変えただけで反応してしまう。
- 寝返り・ヒップアップをするだけでセンサーが反応してしまう。
- 少しの体動でもセンサーが反応してしまう。
- わずかの動きでよく鳴る（寝返り等で）。起きあがったら鳴るのが良い。
- 少し動いただけでもナースコールが鳴る事がある。
- 寝返りや少しの体動で、ナースコールが鳴る。
- 感度が良すぎてすぐ鳴る。
- 寝返りを打っただけで call が鳴ってしまうため、まぎらわしく call がずっと鳴り続けてしまう。
- 感知がよく、ねがえりだけでも鳴ってしまう。
- 感度が良すぎて!?頻りに call になる（訪室すると患者様が熟睡され、動かれた様子がない時）。何でなるのか原因がつきとめられない時もある。
- 少しの動きでブザーが鳴ってしまう。 “わずかなことで反応してしまうと不便。
- 仰臥位側臥位でセンサーが感知してしまう（サンプル使用したことあり）。
- 設置する位置によって、体交しただけでセンサーが鳴ってしまう。
- 設置位置によって、寝返りをうっただけで、センサーが鳴る時があり、患者からクレームがきたことがある。
- 少しでもお尻がずれてしまうと、鳴りっぱなしになる。
- 少し腰を動かしただけで反応する。
- “感度が良すぎる（体交など）。
- 寝返りをうっただけでもセンサーが反応してしまう。
- 患者様の位置がずれたりして体動のかかり方が変わると起きあがっていなくてもなってしまう。
- 少しの体動で、センサーが鳴ってしまう。
- わずかの体動や寝返りでも感知してしまうため、夜間不必要に訪室しなければならないことがある。
- 感度が良く体交や寝衣交換でも鳴る。
- 寝返りやちょっとした坐位などですぐセンサーが感知し、鳴りっぱなしの状態と

なり、結局上手く使い切れなかった経験あり。

- 寝返りをうったびセンサー反応してしまう。
- 感度が良く体交や寝衣交換でも鳴る。
- 感度。
- 側臥位で、すぐ反応する。
- 寝返りをうっただけで反応してしまう。
- おきたくんを使用→感度が悪い。寝相が悪い人には不向き。
- 寝返りを打っただけで鳴る場合、何もしないで鳴る場合があり、信頼度に欠ける。
- 寝返りだけで感知してしまう。
- 寝返りをうっただけでもセンサーが反応してしまい、何度もベッドサイドに行くことになった。感度が合っているのか良く分からなかった。
- 寝返りをするだけでも鳴るため、訪室回数が非常に増え、ナースが少なくなる夜勤は対応に苦慮することが多い。
- 体動しただけで鳴る。
- おきたくんは、少し動いただけでセンサーが感知するので、必要以上にナースコールが鳴るため、あまり使用していない。
- センサーの感知（寝返りや・少し動いただけなのか、転倒の危険がある場合なのか）。
- 感度が良すぎて、少し身体を起こしたり、側臥位になるだけでナースコールと連動してしまう。褥瘡予防マットの場合だと感度が悪くなる。
- 患者の動きに合わせて反応速度の調節をして欲しい。
- センサーが鳴らず、患者が転倒したり、寝がえりをうっただけでコールが鳴りつづけたりする。
- 離床センサーのマットが臀部の位置程の大きさで、ベッドの他の位置に本人さんが移動しただけでも作動したことがある。

□寝心地が悪い

- 材質が硬く、寝心地が悪い。
- 褥瘡のリスクが高い人に使用する割には固い。
- Pt が硬いと訴える人が多いので素材の検討。
- 患者の皮膚にかかる負担が大きい。→びらんをおこした方がいた。
- 患者が臥床した時、異物感があり、かえって不穏となり危険で効果を果たさない。
- やせている患者が多いので固くて痛がる。
- マットの下に敷いても、硬くて寝にくいと Pt より言われたことがある。
- センサーの板が硬いため、寝心地が悪い。またるいその激しい患者には使いにくい。
- センサーがかたく、Pt が痛くて苦痛である。

- ・ 硬くて不快感を訴える Pt が多数いた。
 - ・ 寝心地が悪い（固くて）。
- センサーの設置位置の微調整が難しい
- ・ 患者の体動に合わせて取り付け位置を変えるのが困難。
 - ・ センサーの大きさとベッドの関係・患者の居る位置によっては上手く反応しなかった。
 - ・ 設置が容易ではない。寝返り等でもなってしまうことがある。
 - ・ 寝返りうっただけで鳴る。
 - ・ 設置する位置がびみょう。
 - ・ 離床センサーを使用していたが、起きあがっても鳴らないことがあった。
 - ・ 寝返りをうっただけで、コールが鳴ってしまいその度に訪室し大変だった。
 - ・ 起きあがるとセンサーが鳴る位置に入れるのが少し難しい。
 - ・ あてかたにより、キャッチが敏感であつたりなかつたり…。Pt 様の動きに応じて適切な場所を選択するのが難しい。
 - ・ 感度が難しい。良すぎると少しの動きでも鳴ってしまい、低くするとキャッチできない。
 - ・ 体が下にずれると反応せず、転倒につながってしまった事例あり。
 - ・ センサーの幅をもう少し広くしてほしい。
 - ・ センサーが1つであると、なかなかキャッチできなかつたり、逆にキャッチがはやかつたり（体動だけで鳴ってしまう）。
- センサー部分の設置作業に手間がかかる
- ・ シーツをとってセットしなくてはいけない。
 - ・ 絶対安静の患者様が使用対象となるが、設置しようとする時に、ベッド交換しなければならない時もあり、設置に大変な思いをする。
 - ・ 設置作業が大変でした。患者さんが臥床している状態では困難。
 - ・ 取り付けが大変。
 - ・ リセットが必要なものがあり、不便である。
 - ・ 体が大きい人や体重の多い人は敷くのが大変。
 - ・ 設置が大変。
- 故障・不具合がみられる
- ・ 破損しやすい（配線等）。
 - ・ 接続部がすぐはずれる。
 - ・ コードがベッドの間に入り込みやすく故障の原因になりやすい。
 - ・ 破損が多い。
 - ・ ギャッチアップする時に腰の部分にセンサーマットがあると、壊れやすい。しかし、一番設置しておきたい所です。
- アダプター・スイッチ部分の設置位置が不都合
- ・ センサーの本体をベッド柵にかけておくが、大きくて邪魔に感じることもある。
 - ・ アダプターや ON/OFF のスイッチの取付が悪く、ベッド柵の後ろになってしまったりして、どこにスイッチがあるのかわからなくなってしまう。
 - ・ スwitchの本体が患者からみてわかりやすい（患者が動くたびに音が鳴ることに不信がって、センサーを探し出した）。
- 患者がスイッチを OFF にしてしまう
- ・ センサーの設置位置がベッド柵であるため、オン・オフのボタンを Pt が自分でさわってしまうため、他に設置できるような工夫やオン・オフボタンを Pt がさわれないように位置にして欲しい。
 - ・ これまで2例あり、患者さんが自分でオフにしていた為、転倒した経験あり。
 - ・ 何度か使い方を見て自分でオフにして動いて転倒した例がある。ロックがかかると良いのでは。
- 反応音
- ・ 大部屋の対応では、使えない（音が大きく、他の患者の迷惑になるため）。
 - ・ 音量調節が可能な方がいい。
 - ・ 環境がやかましいと音が聞き取れない。
- 反応して駆けつけても間に合わない
- ・ ナースコールにつながっていて、鳴ってすぐ訪室しても動きの良い患者はベッドサイドへ立っている。間に合わない。
 - ・ センサーが鳴ってすぐ訪室しても患者は動いて起き上がっていたりするのでもっと感度が高いといいのと思う。
 - ・ 行動の速いPtには、離床センサーが鳴った頃では対応が遅い事がある。
- 配線作業に手間がかかる
- ・ 配線の仕方（セッティング）が複雑であり、作動しようとしても上手く作動しないことがあった。
 - ・ 配線がゴチャゴチャしている。
- コードが長い
- ・ コードが長い
 - ・ コードがからまりじゃま。
- 音色が変えられない
- ・ センサーの音色が他の物と区別出来る音色だと良い。（ex. タイマーの音色と似ていて気が付かなかったことがある。）
 - ・ ナースコールなのか、センサーがなったのか、何か色分けできるとか、区別があるとかわいい

□ナースコールと併用できない

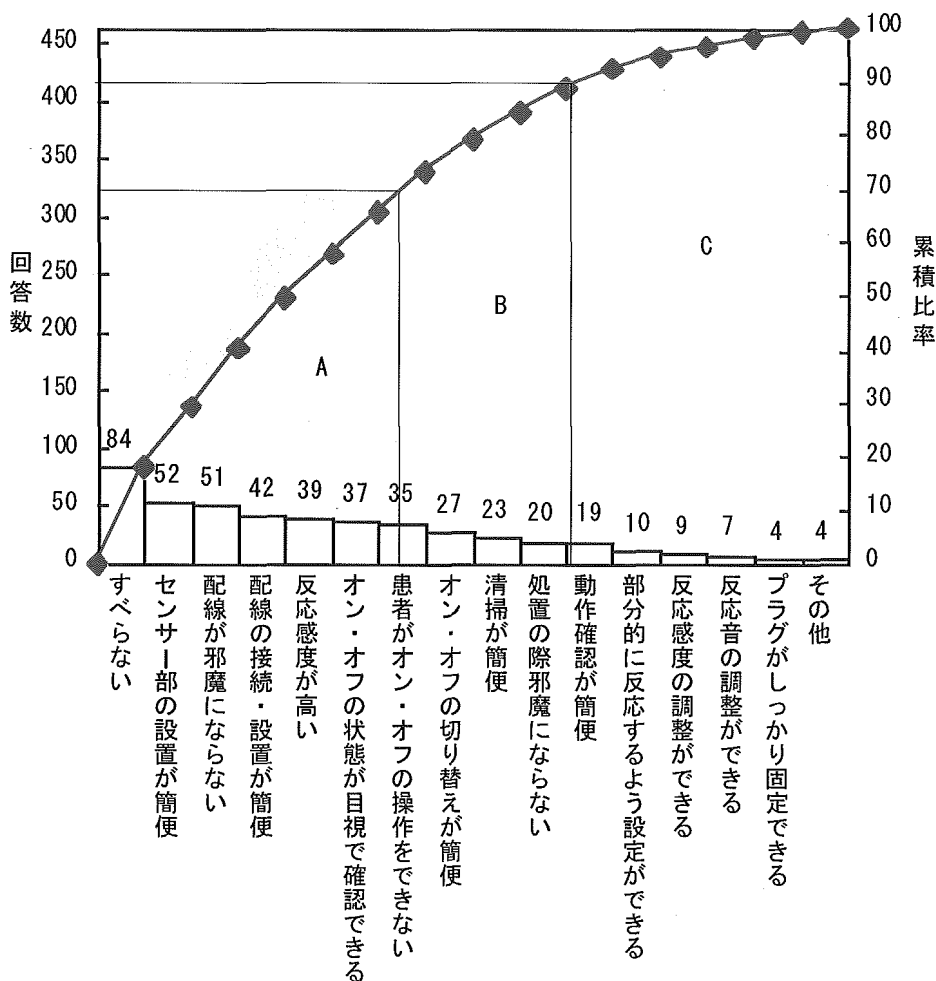
- ・ ナースコールの線を使うため、他の用でPtさんがナースコールを使えない。
- ・ 離床センサーを使用するとボタンでコールすることができない。

資料 2-1 床敷きセンサーについてのアンケート集計結果

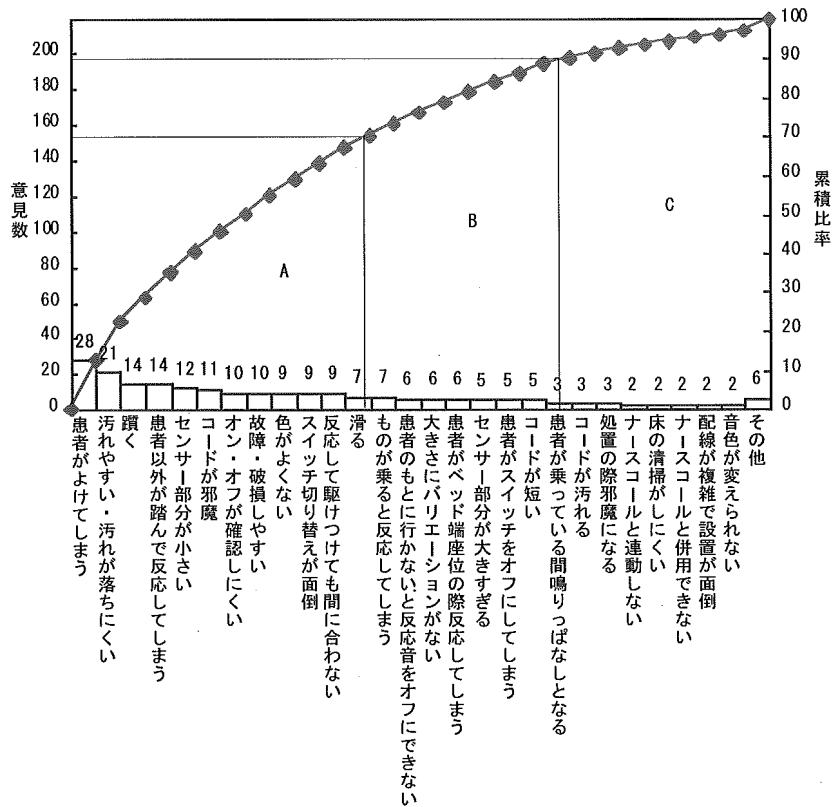
床敷きセンサーの使用状況

使用状況	回答数	回答割合
現在使っている	116	39.5%
過去に使ったことがある	48	16.3%
使ったことがない	123	41.8%
不明	7	2.4%
計	294	100.0%

床敷きセンサーの性能評価で重視する点 (n=463)



床敷きセンサーに対する不満・改善要求意見 (n=219)



資料 2-2 床敷きセンサーの評価軸と求められる性能

床敷きセンサー	
評価軸	求められる性能
安全性への配慮	<input type="checkbox"/> センサー部分や配線につまづかないように設置できる <input type="checkbox"/> 可能な限りコードレス化がはかられている <input type="checkbox"/> センサー部分が滑って床から動くことがないように設置できる <input type="checkbox"/> センサー部分が滑らない素材となっている
設置のしやすさ	<input type="checkbox"/> センサー部が簡便に設置できる <input type="checkbox"/> 配線が簡便にできる
誤報や誤操作を避けるための機能	<input type="checkbox"/> 反応感度が高い <input type="checkbox"/> 患者がスイッチの操作をできない <input type="checkbox"/> ONまたはOFFどちらの状態になっているか確認がしやすい <input type="checkbox"/> ものが載っても反応しないようにできる <input type="checkbox"/> センサーと認識しにくい色や素材となっている <input type="checkbox"/> 患者が跨ぐことができない幅、長さが確保できる <input type="checkbox"/> スwitchの切り替えを簡単に行うことができる <input type="checkbox"/> 患者の状態や環境に応じて、センサーを連結しさまざまなかたちで複数設置することができる
メンテナンスへの配慮	<input type="checkbox"/> 汚れが付きにくい <input type="checkbox"/> 汚れが目立たない色や素材となっている <input type="checkbox"/> 汚れが落ちやすい <input type="checkbox"/> 防水性があり洗浄ができる
故障や破損を防ぐつくり	<input type="checkbox"/> 防水性がある <input type="checkbox"/> センサー部分が引っ張りやよじれ等に強く破れにくい <input type="checkbox"/> 接続部は引っ張られてもはずれない <input type="checkbox"/> センサー部分や配線にもものが乗っても断線しない

資料 2-3 床敷きセンサーの性能を評価するにあたって重視する点・選択理由・一覧表

1. センサー部の設置が簡便

- ・ ベッド以外にその周辺及び病室内、何処にでも設置できる。
- ・ 患者を動かさず、設置が簡単。
- ・ 取り付けが簡便である—誰にでもいつでも設置可能。
- ・ タッチ反応で訪室でき、アクシデントにならずにすむ。
- ・ いろいろな設定をせずとも、差し込みとねじで出来るので誰もが出来る。
- ・ 床に敷くだけでよいし、簡単に位置を直すことができる。
- ・ 限られた台数で必要度の高い患者に移動しやすい。
- ・ すぐに時間をかけず誰でも設置できること。
- ・ 必要な時にすぐに設置できることが必要であるため。
- ・ 人手不足多忙の中でおきることなので簡便であること。
- ・ 設置が簡単で時間がかからない。
- ・ 設置したり除去したり簡単にできるので便利。
- ・ 数少ないので、多くのPtに使うから。
- ・ 必要だと判断した時、ナース一人で設置できるのですぐに使える。
- ・ スペースを選び置くだけで良い。
- ・ 敷くだけなので、敷いている部分がひと目でわかり、設定も簡便である。
- ・ とりつけが簡単にでき、時間がかからない。
- ・ 簡便でなければ使いづらい。
- ・ 設置が簡単なのが時間をロスさせない。
- ・ 床にしくという形は簡易で使用がしやすい。
- ・ 設置しやすい。
- ・ 急ぎで設置することが多いため。
- ・ マットや配線をテープではりつけているのが面倒。
- ・ 設置が簡便でないと使用なくなるため。
- ・ すぐに使用できる。
- ・ 緊急で設置する場合があります、簡便で誰でもできるものがよい。
- ・ 設置をして、すぐの使用できるため。
- ・ 修理が頻回。
- ・ 簡単で便利。
- ・ 必要時すぐに設置できるので便利。
- ・ 忙しい業務に簡単に設置できること。
- ・ 使用方法、設置が簡単。
- ・ 使用しやすい。
- ・ 動けないPtが多いので、簡単に設置できると良い。
- ・ 取付が複雑では、使用する気にならない。
- ・ 使用するスタッフの負担にならない方がよい。
- ・ 設置が面倒だと使用しなくなる。
- ・ 使用頻度の高い用具。設置が難しければ適性使用がされない。
- ・ 簡単に設置。
- ・ 接続しておくだけだから。
- ・ 短時間でセットできた方がよい (忙しい病棟なので)。

2. 配線の接続・設置が簡便

- ・ これまで使用したセンサーは無線が複雑で、上手く作動しないことがあったため。
- ・ ベッド周囲の安全のため、手早く設置するため。
- ・ 配線が短いと設置場所が苦勞する。また、時間がかかったり、接続が複雑であったり使いにくいことがある。
- ・ 短時間で設置、確認ができるもの。
- ・ スタッフが接続・設置を間違えることなく出来るようにするため。
- ・ 転倒リスクが高くても、センサーが複雑だと活用しにくく、対策が不十分。
- ・ 看護の時間の妨げにならないため。
- ・ 必要に応じて着脱する為、簡便が良い。
- ・ 取り付けが簡単で使うのに抵抗感がない。
- ・ 簡便に使えるから。
- ・ 利用回数が多い。
- ・ ナースコールが簡単に接続できる。
- ・ ナースコールとも連動でき、取り付けが簡単である。
- ・ 設置が面倒だと、なかなか作動しないため。
- ・ コンセント差し込みと接続プラグのみで設置可能。
- ・ 設置が簡単で楽である。
- ・ ナースコール連動していて、ひっきりなしに鳴るので困る。
- ・ 人手不足多忙の中でおきることなので簡便であること。
- ・ 簡便である。使用しやすいこと。

- ・ ナースコールに接続するだけで簡単である。
 - ・ 簡単に設置できる方が使いやすく、誤接続がない。
 - ・ ナースコールに接続するだけで良いので使いやすい。
 - ・ どの病室にも使用でき、簡単に接続できる。
 - ・ 正しく設置できない。
 - ・ 複雑だと取り扱いに時間がかかって夜間設置する場合安眠の邪魔になったりする。
 - ・ 誰にでも使いやすく、とりつけが簡便でないと使えない。
 - ・ 接続しやすいため。
 - ・ マットや配線をテープではりつけているのが面倒。
 - ・ 設置が簡便でないと使用なくなるため。
 - ・ 配線は簡便であるが、使用してるうちにすぐにこわれそう。
 - ・ 配線がややこしいものがあった。
 - ・ ナースコールに直接つなげられる設置が簡単。
 - ・ 使用するスタッフの負担にならない方がよい。
 - ・ 時間をかけていられない。
 - ・ 配線が元で転倒させないこと。
 - ・ 夜間でも多少暗くても静かに速やかに設置できる。
 - ・ 接続がこんらんしている。
 - ・ 必要な患者に容易に付け替えができるようにするため。
3. プラグがしっかり固定できる
- ・ 接続部はしっかり固定する事になっている。
 - ・ すぐに故障しないため。
 - ・ 患者が操作できない。
 - ・ 清掃の時などちょっとしたことで抜けることはない。
4. 配線が邪魔にならない
- ・ 患者様の頭側又は足側にセットでき、邪魔にならない。
 - ・ 患者が配線につまづくと困る。
 - ・ 引っかかって危険のないように。
 - ・ 患者さんがベッド上に居る時、配線に触れないから。
 - ・ 配線の位置によっては逆に患者さんの邪魔となる。
 - ・ 躓かないため。
 - ・ 配線でPtがつまづくの危険。
 - ・ 患者の安全のため。
 - ・ 配線が患者さんの安全を損傷する可能性があるため。
 - ・ 患者や医療者が足に引っかけて転んでは危険であるから。
 - ・ 配線が転倒につながらないように。
 - ・ 転倒予防のため。
 - ・ 転倒の原因になる。
 - ・ ナースコールと一緒にいる為、Bedの上下げ時にじゃまになる。
 - ・ 転んだら困る(患者が)。
 - ・ ひっかかり、転ぶ危険性あり。
 - ・ 配線にひっかかたりしないよう、邪魔にならないことが大切。
 - ・ 配線にひっかかてころんでしまう。
 - ・ 転倒防止。
 - ・ 配線が足元にあり危険。
 - ・ ベットサイドに他の配線コードもある時に邪魔になる。ベット上下時のトラブルになる。
 - ・ すべったり、引っかかたりして、転倒の原因にならないようにするため。
 - ・ 周りを通る人の邪魔にならない。
 - ・ 立位がとれるPtに使用するため、配線で転んでしまうおそれがある。
 - ・ 患者の転倒など危険防止、感染予防のため。
 - ・ 配線が整理できるように。
 - ・ センサーを設置したことによる転倒を防ぐため。
 - ・ 安全のため。
 - ・ 配線に足をとられ転倒のリスクが高くなる。
 - ・ 安全確保ができるもの。
 - ・ 配線により患者の安全妨害にならないように。
 - ・ 配線が元で転倒させないこと。
 - ・ 足元に配線があり、邪魔になることがある。
 - ・ 床敷きセンサーを使用する事で、転倒とらないために。
 - ・ 配線で患者も引っかかたり。
 - ・ 動く人が前提のため、配線が邪魔だと転倒リスクが高まるため。
 - ・ コンセントや配線で転んでしまうPtがいる。
 - ・ 足をひっかかたりしないように。
 - ・ コード類が別のリスクを生じる場合がある。
 - ・ 転倒防止。

- ・ 歩く時のものなので、滑らないものが良い。
- ・ 危険（引っかかったりして）。
- ・ 配線によって転倒の危険性があると困る。
- ・ 患者の安全の確保。
- ・ 配線により事故がおこらないようにするため！
- ・ コード類が多いのでキケン。
- ・ 配線がベッドの足に引っかかる等の事があった為。
- ・ 転倒の危険につながる。

5. 処置の際、邪魔にならない

- ・ ナースが介助時にたえずコールが鳴ってしまう。
- ・ 医療従事者が処置等の時、鳴りっぱなしになることがある。
- ・ 段差が生じるので。
- ・ 下にひいてあるので、時々スタッフが call を鳴らしてしまう。
- ・ ナースが処置の際、邪魔になることが多い。
- ・ 配線の長さがあり、ベッドの外側にまわせる為邪魔にならない。
- ・ 処置時に邪魔であると業務に支障をきたすため。
- ・ 処置の際、邪魔になったら、作業能率が悪くなる。
- ・ 処置する時にスイッチをオフにして又オンにする。オフにしたままになる可能性あり。
- ・ Bed 周囲整理のため。
- ・ 配線が足元にあり危険。
- ・ 歩行の障害になると危険。
- ・ 床しきは汚れやすく、邪魔になりやすいと思う。汚れが落としやすいこと。
- ・ 処置時邪魔になる。
- ・ 特に処置中邪魔にならないが、オンのままスタッフが踏んでしまうことがある。
- ・ 設置が簡便でないと使用なくなるため。
- ・ 場所をとらない。

6. 動作確認が簡便

- ・ 重みがかかるとすぐ反応するので早く対応ができる。
- ・ 簡便。
- ・ 足底（両足・片足）か、殿か、身体全体かの状態が理解できると先が見えるかなと思う。
- ・ 患者の体動をできるだけ適切に感知するため。
- ・ タッチ反応で訪室でき、アクシデントにならずにすむ。
- ・ 患者様を抑制する事無く動きがわかる。
- ・ 荷重するとすぐナースコールが鳴る。
- ・ ナースコール反応後、どのようなことで反応したか、訪室するとすぐ確認できる。
- ・ 業務が多忙だから。
- ・ マットに乗るとナースコールがすぐ鳴る。
- ・ 使用しやすい。
- ・ 設置したらすぐに確認がその場でできる為。
- ・ どのような動きかがわかるとよいから。
- ・ 踏めば鳴るのでわかりやすい。
- ・ 常時作動確認が必要なため、簡便でありたい。

7. ON/OFF の状態が目視で確認できる

- ・ Pt もできてしまうし、医療者側には、使いやすいが。
- ・ 医療者側として使い勝手が良い点であるが、反面、患者側もできてしまう点となってしまう。
- ・ 訪室時、作動中かどうか確認できるように。
- ・ 患者様がオフにしてしまうことがある。
- ・ せっかくセンサーを使用しているも、OFF になっている事に気づかないと意味がない為。
- ・ センサー使用しているもオフになっていることに気付かないと意味がない為。
- ・ オン・オフは目で見て確認できる。
- ・ 処置時オフにしたままで実際役に立たなくても困る。
- ・ 家人がオフにした電源をオンにつけ忘れることがある。又、ナースも忘れることがある。
- ・ せっかく設置しているのに、オフにしたまま、未確認では意味がないため。
- ・ on、off の所がひっくり返らず表になっていると見易いが…。
- ・ 簡便に確認できる事で確認回数が増え off にしたまま…という事が減る。
- ・ 使用状況が一目でわかる。
- ・ 入眠中など目視できちんと作動しているか確認するため。
- ・ ON/OFF がはっきりしていた方が良い。
- ・ 毎回の訪床時確認が必要。
- ・ 訪室する度にチェックしやすい。
- ・ オフにしたままでオンに戻さずセンサーが作動せずインシデントに結びついた事があった。
- ・ 処置等でオフにした後、再度オンにし忘れる事がある。
- ・ 処置等でオフにした後、オンになったか不明の時があり、確認に時間がかかるため。
- ・ オンになってないとセンサーの使用意味がないため。確認は常に必要にて。

- ・ 簡便。
 - ・ 確認しやすい。
 - ・ 頭側にセットしてあるためすぐ確認できる。
 - ・ オン/オフの確認が楽なため。
 - ・ 中間のスイッチを介助者が都合の良い場所にすぐ移動できる。
 - ・ チェックができるため。
 - ・ オフになったままになる可能性がある。
 - ・ スイッチでオン・オフがわかり確認しやすい。
 - ・ スイッチの所を見てすぐ確認できる。
 - ・ オン/オフの状態が目視で確認できること。
 - ・ ひいておいてもスイッチが off では正しく使用できない。
 - ・ Ns が自らふんでしまい、ならしてしまうため。
 - ・ 状態がすぐに把握できる。
8. ON/OFF の切り替えが簡便
- ・ 設置が容易である。
 - ・ スムーズにオン・オフできること。
 - ・ 処置時等にナースが乗って反応してしまいオフにしたままになる危険がある。
 - ・ オン/オフの切り替えが簡便なこと。
 - ・ 必要時切りかえができる。
 - ・ 処置のときに、すぐにセンサー音が鳴るから。
 - ・ Pt もできてしまうし、医療者側には、使いやすいが。
 - ・ 医療者側として使い勝手が良い点であるが、反面、患者側もできてしまう点となってしまう。
 - ・ ケア時はオフにできるし、必要に応じた使用ができる。
 - ・ 処置等の時、ナースがオン・オフしやすい方が使いやすい。
 - ・ スイッチひとつで on/off ができることは操作性はよい。
 - ・ 簡単で便利。
 - ・ (アラームがすぐに鳴るが) 必要ない時に切りかえられる。
 - ・ 離床した後付き添わなければならないことも多いので、すぐに OFF できないとセンサーが鳴り続けてしまうので。
 - ・ “夜間のみ” “夕方” etc. 患者の状況に合わせられる。
 - ・ 処置の時にすぐ切り替えができる。
 - ・ 準備に時間がかからない。
 - ・ 処置する時にオフとするだけで行なえる。
 - ・ 家族やナースが側にいる時はオフが良い為、切り替えが簡単が良い。
 - ・ 業務が多忙だから。
 - ・ 医療者がベッドサイドに行った時は、オフに切り替える必要があり、簡単である。
 - ・ 難しいと取り扱い困難になる。
 - ・ 使用が簡単で利用しやすいため。
 - ・ 設置が簡便な。
 - ・ 簡単に使用でき、ケア時などすぐ off にできる為。
 - ・ 短時間でセットできた方が良い (忙しい病棟なので)。
9. 患者が ON/OFF の操作をできない
- ・ 簡単に操作出来ては安全が確保されないため。
 - ・ 高次脳機能障害患者に適。
 - ・ Pt がオフにすれば、使用している意味がない。
 - ・ 有効に作動できる様に人がさわっても作動できること。
 - ・ 患者様が簡単に操作したのでは意味がない。
 - ・ ON/OFF のスイッチだけでは患者が慣れてくると操作してしまうことがあったから。
 - ・ 患者が自分で off にしてしまう事があったので。
 - ・ Pt 自身が操作を覚えると、事故を未然に防げなくなる可能性があるため。
 - ・ “まだら痴呆” のように認識がしっかりしている時は、操作をされることもある。
 - ・ 患者がオフにすると危険。
 - ・ 患者が操作を安易にできてしまうと、使用する意味がない。
 - ・ スイッチの位置によるが、手の届かない所に設置が可能。
 - ・ 患者が操作できる位置にあたり、方法であれば意味がないから。
 - ・ 患者が操作すると効果がない。
 - ・ 意識はしっかりしている患者も多く。
 - ・ 患者自身が操作をすると意味がない。
 - ・ スイッチ部は患者の目の届かないところにあう (ベッドの下等) のでよい。
 - ・ 患者が操作できてしまつては、敷く意味がないから。
 - ・ 足元に掛けておく事で操作できにくい。
 - ・ 使用目的が達成できるように。
 - ・ 患者様が調節できないこと。
 - ・ 患者の目が行きにくいものであってほしい。オフにしてしまつては意味がない。
 - ・ 患者がオフにしてしまうことにより、機能しない。

- ・ オンになってないとセンサーの使用意味がないため。確認は常に必要にて。
 - ・ 患者が自分でオフにしてしまったら意味がない。
 - ・ 簡便。
 - ・ 認知症の方もおり、勝手に操作しては困る。
 - ・ Pt が OFF にしたら意味がないため。
10. 反応感度が高い
- ・ 危険な患者が多く、歩き出す前にベッドサイドに駆けつけたいから。
 - ・ 離床しベッドサイドに足をつけるとすぐ感知する。
 - ・ 感度が低くは、使う意味がない。
 - ・ 反応感度が鈍ければ意味がない。
 - ・ 鳴ってすぐ行っても部屋が遠いところもあるため。
 - ・ マットに重荷がかかると必ず反応し、知らせてくれる為。
 - ・ 即、対応しなければならぬから。
 - ・ 患者の安全確保のために。
 - ・ すぐに反応音が鳴る一すぐ対応できる。
 - ・ 患者さんによっては、上手にマットを外して降りてしまう。
 - ・ 反応感度は良い。
 - ・ 患者の危険を早く察知出来るように。
 - ・ 感度悪いことがある。
 - ・ 動作で差がないようにしたいため。
 - ・ はしっこを踏んだだけでも反応してほしい。
 - ・ 安全を第一に考えるので、感度を良好にしたい。
 - ・ マット内に足がさわれば、すぐにナースコールが鳴るので、タイムリーに対応できる。
 - ・ 速やかにベッドサイドに向かうため。
 - ・ 足が着いただけでコールが鳴る。
 - ・ 徘徊を防止あるいは歩行時に看護師が直ちに付き添えるようになる。
 - ・ 早く発見できれば、その分より事故防止に繋がる。
 - ・ 患者の体動をできるだけ適切に感知するため。
 - ・ スリッパ程ならオーケーでも、点滴スタンドが乗ると感度が高いため、反応してしまう。点滴ルートの長さも考えて使用している。
 - ・ スリッパくらいでは反応しないが、片足が乗っただけでも反応して良い。しかし、点滴スタンドが乗ると反応してしまうため、狭い部屋では、スタンドの置き場所に苦慮している。
 - ・ 感度が高いため転倒する前に訪室できる。
 - ・ 触れると作動するので。
 - ・ ベッド上のものが落ちただけでも感知できれば、おりようとするヒントとなるから。
 - ・ 感度が良く安心できる。
 - ・ 高すぎることもある。
 - ・ 荷重に反応、容易であること。
 - ・ 感度が低いと離床しても鳴らないため。
 - ・ 患者の体動がキャッチしやすいため。
 - ・ 歩き出してからでは遅いので、たったそのときに鳴って欲しい。
11. 反応感度の調整ができる
- ・ 点滴スタンドが軽くのったりするだけで反応することがある。
 - ・ 感度の調整も必要。
 - ・ 患者さんの重さだけに反応できるようであれば…と思う。
 - ・ 夜間、昼間の調節が自由であると、状況判断に良いと思うため。
 - ・ 感度がよすぎても悪くても効果ない。
 - ・ ちょっと動いてもなってしまうこともある。
12. 反応音の調整ができる
- ・ 患者にとって騒音になり不穏を助長する。
 - ・ 他の N s Call 音と音色が異なると良いが…。
 - ・ 音がなりつづけてしまう。夜間は他 Pt にめいわく。
 - ・ 他のナースコールとの区別がつくとより良い。
 - ・ 他のナースコールとの区別がつくとより良い。
 - ・ 普通のインターフォンと区別したいから。
13. 部分的に反応するよう設定ができる
- ・ 座位で反応しないように。
 - ・ ちょっとした行動も把握できること。
 - ・ 医療者の処置時にも反応して不便な為。
 - ・ オーバーテーブルがあたって鳴ったりすることがあるため。
 - ・ 広くありすぎると Pt 以外で感知してしまう。
 - ・ 部分時反応は必要。
14. すべらない
- ・ 降りた瞬間、滑ることで、第三の危険を招くおそれがあるため。
 - ・ センサー使用する事で転倒のリスクが高くなる。

- ・ 危険なため。
- ・ 転倒しにくいこと。
- ・ 尿やお茶などがこぼれて、汚れやすいので。
- ・ 転倒のおそれのある患者が使用しているので、安全を第一に考えたい。
- ・ 立ち上がった時に滑る。
- ・ センサーマットにつまづくことが多い。
- ・ センサーマットに乗って滑ったのでは意味がない。
- ・ マットに乗るため、滑らないような保護・防止がされている。
- ・ センサーを設置する Pt は、もともと転倒しやすいため、センサーでより滑りやすくなつては意味がないため。
- ・ 転倒防止。
- ・ 歩く時のものなので、滑らないものが良い。
- ・ 転倒の危険性が大きい。
- ・ 基本的にベッドサイドに敷くものだから。
- ・ 配線が邪魔になりキケンにならないように。
- ・ これを使用する患者の場合 ADL 的に不安定な事も考えられる為。
- ・ これを使用する患者の場合の ADL の問題。
- ・ 患者の安全の確保。
- ・ 転倒防止。
- ・ 滑るものだと、さらにテープなどで固定必要になる。
- ・ 転倒予防のため。
- ・ 段差が生じるので。
- ・ すべるなんてもっての他。置く意味がない。
- ・ 転倒防止。
- ・ 足をついたことにより転倒があつては困る（高齢者等）。
- ・ すべらないようにテープ固定などしています。
- ・ すべることでまた転倒につながる。
- ・ 使用時安全が第一。
- ・ ゴムの様なですべらない（マットから動かない）。
- ・ 転倒するから。
- ・ すべったり、引っかかったりして、転倒の原因にならないようにするため。
- ・ 立った時にセンサーで転倒してしまう。
- ・ センサーを設置したことによる転倒を防ぐため。
- ・ 安全のため。
- ・ センサーで反応しても、二次的に外傷する事がないよう。
- ・ 安全確保ができるもの。
- ・ 滑ることがあるため、センサーによって転倒を招くおそれがあると思われる。
- ・ すべって転倒すると困る。
- ・ すべらない—安全である。
- ・ マット自体が滑り止めになり、マット上での転倒の危険が少ない。
- ・ 床に敷くので安全な事。
- ・ 全体がゴム製？滑らない。
- ・ 着地でセンサーが反応するので、安全であることが重要。
- ・ 立位になったとき、滑ることにより転倒が考えられるため。
- ・ 転倒予防のため。
- ・ 足を着いた時点で作動するが、駆けつける間に滑っていないともいえない。
- ・ こけると危険。
- ・ 患者の安全のため。
- ・ 滑るとセンサーをしている意味がない。
- ・ 安全面を考慮し事故につながらない素材。
- ・ おりて滑って転倒の危険。
- ・ 汚れ防止でカバーをつけたら、滑りやすくなった。汚れず、滑らず…が良い。
- ・ 滑ることによる転倒の危険因子がなくなる。
- ・ 現在使用のマットにカバーを付けると、滑りやすくなったため。
- ・ 立ち上がって滑ってしまえば利用の価値がない。
- ・ 動く人が前提のため、配線が邪魔だと転倒リスクが高まるため。
- ・ 転倒につながりあぶない。
- ・ おりたときにすべって転んだら困る。
- ・ 転倒予防の用品の為必須条件。
- ・ すべり止め効果もあることで事故防止につながる。
- ・ 転倒することないよう大切なこと。
- ・ これですべったら元も子もない。
- ・ マットがすべると転倒のリスクあり。
- ・ 患者移動の際に足もとの安全のため。
- ・ 事故を防ぐ装置が事故を誘発させることを防ぐことが大事。

- ・ Ptが危険なため。
- ・ センサーで滑って転倒は許されないと思う。
- ・ 場所がずれると意味がない。
- ・ 患者・看護側とも安全のため。
- ・ 患者の転倒など危険防止、感染予防のため。
- ・ 滑らないようにする。

15. 清掃が簡便

- ・ 尿やお茶などがこぼれて、汚れやすいので。
- ・ 床敷きであるため、不潔になる事が多い。
- ・ 下にひいてあるので、時々スタッフが call を鳴らしてしまう。
- ・ 清拭するだけで良い。
- ・ 徘徊行動のため起立し、転倒・転落する患者に使用することが多いため。
- ・ 床に敷くので、汚れやすい。
- ・ 清掃しやすい。
- ・ 床に敷き足で踏むため、清掃が簡単であることが重要である。
- ・ 繰り返し使いたいため。
- ・ 汚染される可能性が高い。
- ・ 排尿したり汚れ激しい。
- ・ 床に置くため、汚れやすい。
- ・ 不潔になりやすいため。
- ・ 床に敷くため、清潔に使いたい。
- ・ 拭くだけで表面の汚れは落とせる。
- ・ ベット周囲がベトベト（テープではるので）するから。
- ・ 床のそうじがしやすいことも大切。
- ・ 使用中、使用后、清潔に保つ為。
- ・ ゴムのようなので拭きやすい。
- ・ 非常に汚れるので。

16. その他

- ・ マットとコードの接続が故障が多い。
- ・ 患者が座るのはないが、立ち上がりや、歩行に注意したいので、目的に合っている。

資料2-4 床敷きセンサーへの不満・改善要求意見・一覧表

□患者がよけてしまう

- ・ ナースがセンサーを避けて患者様に接するため、患者様もセンサーをまたいでいた事があった。
- ・ 患者様がまたいでしまう。
- ・ しばらく使用しているうちに、足をおろすとナースが来ることが分かるようになり、センサーを踏まないようにして別の所へおりてしまう。
- ・ マットの無いところに降りてしまうケースが多い。
- ・ ベッドサイドに敷いた時に、マットの部分をまたいで立っていたため、センサーが作動しなかった。
- ・ センサーを敷いた側と反対側に降りて（落ちて）しまうケースがある。
- ・ Ptがまたぐ
- ・ 患者様がよけて通る様になり、離床しても分からなかったことがあった。
- ・ 患者が離床センサーを意識して、踏まない様に降りられて感知されないこと。
- ・ 患者がわざわざよけて動いてしまうことがある。
- ・ Ptがマットをよけてベッド下に降りてしまったことがある。
- ・ Ptがセンサーについて分かると、踏まないように、上手く降りる様になる。
- ・ 患者がセンサーをよけて降りる
- ・ 学習してしまう患者はまたいだりしてしまう。
- ・ Ptにマットがばれてしまい、よけて通ってしまう。
- ・ 鳴ることが分かると、マットをまたいで通ったりしたことがあった。
- ・ Ptがまたいでしまう事あり。
- ・ 患者が床敷きの上を通らないとセンサーしない。床敷きが狭いため敷かれていない箇所を通ると感知しない。
- ・ 患者がまたいで歩いてしまったり、自分でたたんでしまったりする方がいる。
- ・ スペースがせまかったので、患者が簡単にまたいでしまった。
- ・ 設置の反対側から降りようとした。
- ・ 敷いてあるところをさけて患者がうごくことがあった。
- ・ 認知症の方や脳外科疾患で少しうごけるようになったが転倒転落の危険度がとても高い方に使用しているが、広い部屋だと反対側からおりられてしまったり、これをお踏むとコールが鳴るといことがわかり、鳴らないようにとびこえようとしてかえってあぶない。
- ・ 床敷きセンサーが敷いてあるのに気付くと、反対側から降りられて、センサーの意味をなさなかった。

- ・ 両側に必要。
 - ・ 患者様が敷かれてはいない所を通るため。
 - ・ 床に敷いてあるマットを踏むと音が鳴ると分かる Pt は、センサーをまたいでしまう。
 - ・ 患者が自分で場所をずらしてマットを通らずに歩いていることがあったので、ずれないようにものがほしい。
 - ・ センサーを敷いた方と逆から降りてしまった。
- 汚れやすい・汚れが落ちにくい
- ・ このセンサーをつける人程、マットを汚しやすいので、洗っても汚れが落ちやすいものにしてほしい。
 - ・ マットに溝が切っているため、汚れがとれない。
 - ・ 不穩 Pt さんの放尿などでセンサーマットの汚染があり
 - ・ 汚れが落ちない。
 - ・ センサー全体に溝があり、汚れがたまりやすい。溝がないものを。
 - ・ マット自体が汚染しやすいので、カバーをしなければならない。
 - ・ 汚れの取り替えシートがあると便利。
 - ・ 汚染されても洗浄できない。
 - ・ すぐ汚れる
 - ・ すき間に汚れが入ってしまい、おちにくい。
 - ・ これを使っている方は、状態が悪い方であり、ベッドサイドで尿失禁したりすることもあり、すぐく汚れてしまい、ふいてもなかなかキレイにならないように思う。
 - ・ そうじしにくい。
 - ・ 汚れやすい。
 - ・ マットが汚れるため、収納時の手入れが大変である。
 - ・ 尿汚染が床にひろがった時の処置。
 - ・ ごみが付着しない、清掃しやすいようにしてほしい。
 - ・ マットが汚れやすい為、カバーがあると良い。
 - ・ 汚れが気になる。
 - ・ 床にひいて使用するため、すぐ汚れてしまう。
 - ・ 汚れが目立つ。
 - ・ かなり汚くなり、拭いても汚れが落ちない。
- 蹟く
- ・ 患者が敷物につまづくことがある。
 - ・ マットの段差につまづく危険があること
 - ・ 厚みがある。
 - ・ マットが浮くのでつまづく可能性があり、ガムフープなどで床に固定している。
 - ・ 動いてしまう。
 - ・ 患者がつまづく時がある。
 - ・ 厚みを薄くしてもらおう。転倒予防。
 - ・ 医療従事者や Fa がひっかかってしまう時。
 - ・ つまづくことがある。
 - ・ すべらないように表面が少しざらついているが、患者さんにはかえってつまづきやすい時もある。
 - ・ 薄型ではあるが、ふちに足がつかかる方もいた。
 - ・ 厚みがあり、ひっかかりあぶない。
 - ・ call セットやコードでつまづいてしまう患者さんがいた。
 - ・ マットにつまづきそうになった高齢者がいた
 - ・ 足元がおぼつかない（小刻みに歩く人） Pt に使用するとセンサーに蹟きそうになることがある。
 - ・ 点滴スタンドが蹟く。すり足で歩くような Pt は…。
- 患者以外が踏んで反応してしまう
- ・ 家人に説明してあるが、毎回訪室毎に忘れて、センサーの上に上がってしまう。
 - ・ 訪室したドクター・ナースが踏んで反応してしまう
 - ・ 面会の方がベッドサイドに行かれコールが鳴る。
 - ・ ナースが立つと鳴るので、
 - ・ 医療者が踏んでしまうことがある。
 - ・ 患者のベッドサイドに行き、ナースがすこし触れるだけでも鳴るので、
 - ・ 介助でナースがマット上で立つ毎にコールが鳴ってしまう（判別する方法があれば…!?!）。
 - ・ 家族や医療者、オーバーテーブルなどを乗せた時反応してしまう（仕方ないとは思う）。
 - ・ 間違っ踏んでしまうことがある（ナースが）。
 - ・ 処置時にナースが鳴らしてしまったり
 - ・ ナースが処置の時鳴ってしまう。
 - ・ 反応が良く、医療介助者がふれて、すぐに鳴り困ることがあります。
 - ・ 掃除の人、ドクターなどわからずにセンサーに乗る。
 - ・ 家族やナースが側に立って踏むとすぐ鳴ってしまう。
- センサー部分が小さい
- ・ センサーであることに気づくと、避けて降りるようになる。
 - ・ 幅が少ない。
 - ・ センサーが小さい感知場所を充分におおえず乗り越える事により機能を果たしていないことがある。

- ・ サイズが短く、センサーのない部分から患者が降りたケースがあった。
- ・ センサー部分がベッド全体までかかる長さがあると良い。
- ・ マットの長さを長く、幅を広くまたげないようにして欲しい。
- ・ 病室から出てしまう患者（離院の可能性のある患者）に使用し、部屋の入り口で使用したことがあるが、ドアの開く幅よりもマットが小さく、よけてしまうことがある。
- ・ 長さが少し不足している
- ・ Ptがマットを踏まずに歩いてしまう（小さいため）。
- ・ マットの大きさ。ベッドの長さに比べ小さい。患者はどこから降りることも可能。マットの上に降りなければ設置の意味がない。
- ・ もう少し大きいものにして欲しい。
- ・ またげないくらいの大きさのもの。

□コードが邪魔

- ・ コードが長くつまづきなどの転倒に繋がりがやすいし、埃もたまりやすい。
- ・ コードが長くて危険。汚れてしまう、落ちにくい。
- ・ 配線コードが無駄に出ているため足に引っかける。
- ・ 配線が邪魔になることがある。
- ・ コードが足元やベッド柵の下にひろがり、危険因子につながる。
- ・ コードが床にあるのでひっかかりやすい。
- ・ コードの長さなどがひっかかりやすい。
- ・ コードがじゃま。
- ・ コード類を最小限にしてほしい。
- ・ 歩行時、つまづきやすい。
- ・ コードがこわれやすい。
- ・ よごれる。
- ・ コードが、躓いたりする原因にもなりやすいため、もう少し工夫ができると良い。
- ・ ガムテープなどでコードを床に固定した。

□ON/OFFが確認しにくい

- ・ オン/オフの操作を目視で確認しにくいので、はっきり確認できるようにして欲しい。
- ・ オン/オフの表示がわかりにくい。
- ・ オン/オフスイッチがコードをさぐって見なければ分からず不便。
- ・ on/offのスイッチが小さい、見えにくい。反面患者さんには気にならないので良い。
- ・ On/offを確認するのが面倒（いちいちしゃがむ必要がある）。
- ・ Onにするのを忘れてしまう。
- ・ 処置介助時1回毎に電源を切ると電源を入れ忘れた事あり。
- ・ 一旦OFFにしたらONにする事を忘れてしまう事がある。
- ・ スイッチが2ヶ所あり、2ヶ所とも入っていないと作動しないため。確認ミスでセンサーが作動せず、事故発生した事があった。
- ・ ON/OFFのスイッチの場所がわからなくなってしまう。

□故障・破損しやすい

- ・ オーバーテーブル使用時、断線のおそれあり、限られた物しか使用出来ない。
- ・ オン/オフスイッチ部分が破損しやすい。
- ・ 配線の接続部等の故障。
- ・ コードの接続部の不良が多く発生している。又、収納の際に、三つ折りにするためか中のセンサー部分がずれて鳴り続けたりしたこと数回あり。
- ・ コードとの接続部が破れやすい。
- ・ 壊れやすいこと。
- ・ 水に弱かったり、引っ張られて壊れたり故障が多い。何かいいアイデアがないか。
- ・ すぐ故障する。
- ・ 接続部の配線がすぐ故障する。
- ・ 壊れやすい印象がある。

□色がよくない

- ・ 黒地であるため埃が目立ち、汚い感じがする。
- ・ 色が汚れが目立ちにくいのが、美しくはない。
- ・ 汚れが落ちにくいので、汚れが目立たないものにしてほしい。
- ・ 色使いをもっと明るくして欲しい。
- ・ Ptがマットとわからないよう、床と同じような色だと良い。
- ・ 患者にマットとわかりにくい
- ・ よけてしまうので敷いたのが分からないような工夫（床の色と同じにする）
- ・ 明るいマットカバー。家の中で使用している足マットと同じ感覚で使用していただける印象と感覚をあたえるものがない。
- ・ デザイン（カラー等）明るい感じのものがよい。

□ON/OFFスイッチ切り替えが面倒

- ・ 患者の側に近づくためには、床敷センサーを踏まなければならない、その時々でセンサーをオン・オフにしないと不便。切り替え忘れも生じる可能性が充分にあるので危険と思うことがある。
- ・ ナースが処置でオフにしてセンサーから離れると又すぐにスイッチをオンになるようにしてほしい。オ

- ン忘れが無い様に。
 - ・ オン/オフのスイッチが、ナースコールに近い為、操作しにくい。
 - ・ オン/オフのスイッチの位置が不便。
 - ・ オン“オフ”の操作するのにナースがかがまなければならない。
 - ・ スタッフや家人が少しセンサーに乗っただけでもセンサーが鳴るのは、感度が良いと感心する反面、もっとスイッチオフしやすいと便利ではと思われまふ。スイッチが Pt の頭元のナースコールに連動するのでセンサーより奥に位置しているのが都合なことが多い。
 - ・ マットの近くではなく、ナースコールとの接続の部分（見やすい目の高さ）に、オン・オフ切り替えスイッチを付けてほしい。
 - ・ スイッチを足元でなく上の方にして欲しい。
 - ・ on・off が容易にできるとよい。
- 反応して駆けつけても間に合わない
- ・ コールが鳴ってから訪室すると、既に患者は行動を起こしている。
 - ・ 転倒してから反応するため、患者の選択が必要。
 - ・ コールがあつてからでは、間に合わないことあり。
 - ・ 床に降りてしまつてからでは遅い場合もある。
 - ・ 降りてしまつた時になるので、コールがあつて部屋に行った時は、すでに Pt の安静が守れなかつたことがある。
 - ・ 降りてからでないと反応しないため、訪室した時には座り込んでいます。
 - ・ 床に足を着いた時点でコールされても、遅い場合が多く、当病棟ではうーご君を活用している。
 - ・ センサーが鳴り訪室した時には転倒しているという場合があつた。
 - ・ センサーが鳴つた時に、端座位、立位の時は良いが、既に転倒されていることがあるので、転倒予防にならない。
- ものが乗ると反応してしまう
- ・ スリッパをおいておくだけでも反応する。
 - ・ 物が乗っていることと人が乗っていることの区別が出来るようにして欲しい。
 - ・ 点滴スタンド・ゴミ箱など、ベッドサイドに置いておきたい物の設置に困る。
 - ・ 点滴スタンドが乗つてもセンサーが反応する為、マットの上に置けない。
 - ・ 点滴スタンドをマットの上に置けない。
 - ・ 置く範囲が狭い場合、置きにくい。
 - ・ 不便だと思うことは、くつをのせておけない事。
- 滑る
- ・ センサー部分の材質を滑りにくいものにして欲しい。
 - ・ すべる。
 - ・ センサー自体が滑つたことがある。
 - ・ 滑りにくいものを。
 - ・ カバーがないので廃品利用しており、少し滑りやすい。滑りにくいカバーがあると良い。
 - ・ 床敷きが使用しているとマモウしずべりやすい。
 - ・ 床に固定できると良い（マットが動かないような工夫）。
- 患者のもとに行かないと反応音を OFF にできない
- ・ コールに対応しても、Pt サイドのスイッチをオフにしないと何回も鳴る。
 - ・ センサーによるコールがあると、電源をオフにしないと、コールが鳴り続け、夜間は他の患者さんに迷惑です。
 - ・ ナースコールに連動している為、鳴り続けることがあります。
 - ・ 一度 Nscall をとつて訪室するまでの間も鳴りつづける。夜間帯は音がひびきわたり他 Pt にめいわく。
 - ・ 反応音が鳴りつづなして困つた。
 - ・ いつまでも鳴っているのは不便である。
- 大きさにバリエーションがない
- ・ もう少し大きさの種類があれば良い。
 - ・ センサー部分の大きさを選択できる様にしてほしい。
 - ・ 大きさが選択できると良い。
 - ・ 大きさが色々あるといい。
 - ・ 大きさの種類を豊富に。
 - ・ 長さが調整できるとよい。
- 患者がベッド端座位の際反応してしまう
- ・ 患者が食事などで単座位になるなど、触れた位でコールが鳴り、頻回に不用品なコールが鳴る。
 - ・ 下垂足になり食事をしている時など鳴りつづなし。
 - ・ ベットの片側に置くが患者がおりにくこと以外にもマットの上に乗ることがあり、コールが鳴る。
 - ・ 感度がよすぎてすぐに鳴つてしまう。
 - ・ 立ち上がりから端座位になつただけで、コールが鳴つてしまう（立ち上がりを知るために使用したかつた）。
 - ・ センサーの感度の調節ができると良いと思つた。少し触れただけで鳴るため。
- センサー部分が大きすぎる
- ・ 巾などの改良。
 - ・ マットの長さは良いが、幅は 10 cm～15 cm位、狭くとも良い（ベッドとベッドの間に敷いた時は踏むことがある）。

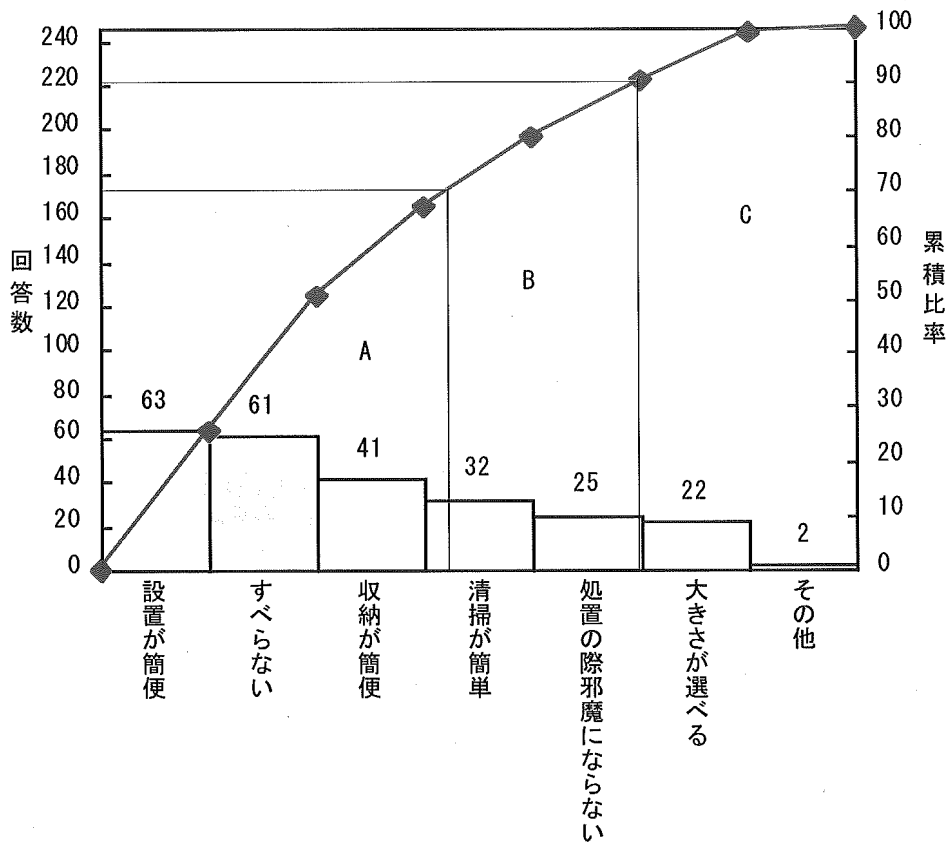
- ・ 大きすぎて、サイドテーブルが置けない時があった（大部屋だったためベッド間が狭かった）。
 - ・ マットの長さは良いが、幅は 10 cm～15 cm位、狭くとも良い（ベッドとベッドの間に敷いた時は踏むことがある）。
 - ・ 大き過ぎる。
 - ・ 今使用しているものは大きすぎて、処置がしづらく、DIV スタンドが乗って鳴ったりする。
- 患者がスイッチを OFF にしてしまう
- ・ オン・オフスイッチをわからないようにする。
 - ・ Pt が容易にオフにしまう。
 - ・ 長期使用の患者はスイッチの使用方法を学習してしまうことがある。
 - ・ 学習してしまう患者はスイッチをオフにしまう。
 - ・ 患者自身が自分でオフにしたことがあった。
- コードが短い
- ・ コードを長く
 - ・ ナースコールから接続するまでのラインが短い。部屋が個室の場合広くセンサーが必要。
 - ・ マットの大きさと、邪魔にならない配線について改良が必要。
 - ・ コンセントからマットまでの長さが短い時がある。
 - ・ コードが短い
- 患者が乗っている間、鳴りっぱなしとなる
- ・ 患者がマットに上っている間、ずっと鳴り続けるのが困る。
 - ・ ずっと坐位になっているため、マットもふんでしまい鳴りっぱなし。位置少しずらしたら鳴らずに転倒した
 - ・ 頻回に降りる不穏な方には鳴りっぱなし。
- コードが汚れる
- ・ コードが長くつまづきなどの転倒に繋がりがやすいし、埃もたまりやすい。
 - ・ コードが長くて危険。汚れてしまう、落ちにくい。
 - ・ 歩行時、つまづきやすい。
 - ・ コードがこわれやすい。
 - ・ よごれる。
- 処置の際邪魔になる
- ・ 看護者がベッドサイドでケアをする時はスイッチを切っているが、邪魔と思うこともある。
 - ・ 処置の際邪魔になる。
 - ・ Nr に処置時、動かさなくていけないこと。
- ナースコールと連動しない
- ・ ナースコールに連動感知はないので、患者の動きで反応しているのかどうか確認しづらい。
 - ・ 脱落時にナースコールに連動しない。
- 床の清掃がしにくい
- ・ 床に置くことで掃除がしにくい。
 - ・ 床そうじの時にややしにくい。
- ナースコールと併用できない
- ・ ナースコール、センサー両方使用できるものがないことがある。
 - ・ ナースコールも同時に使えること。
- 配線が複雑で設置が面倒
- ・ 配線が複雑。
 - ・ 接続コードが多く、搬送時に取り外しが面倒。
- 音色が変えられない
- ・ 複数で使用している場合は、音の種類が変えられるようにしてほしい。
 - ・ ナースコールと別なコール音の方が良い。

資料 3-1 衝撃吸収マットについてのアンケート集計結果

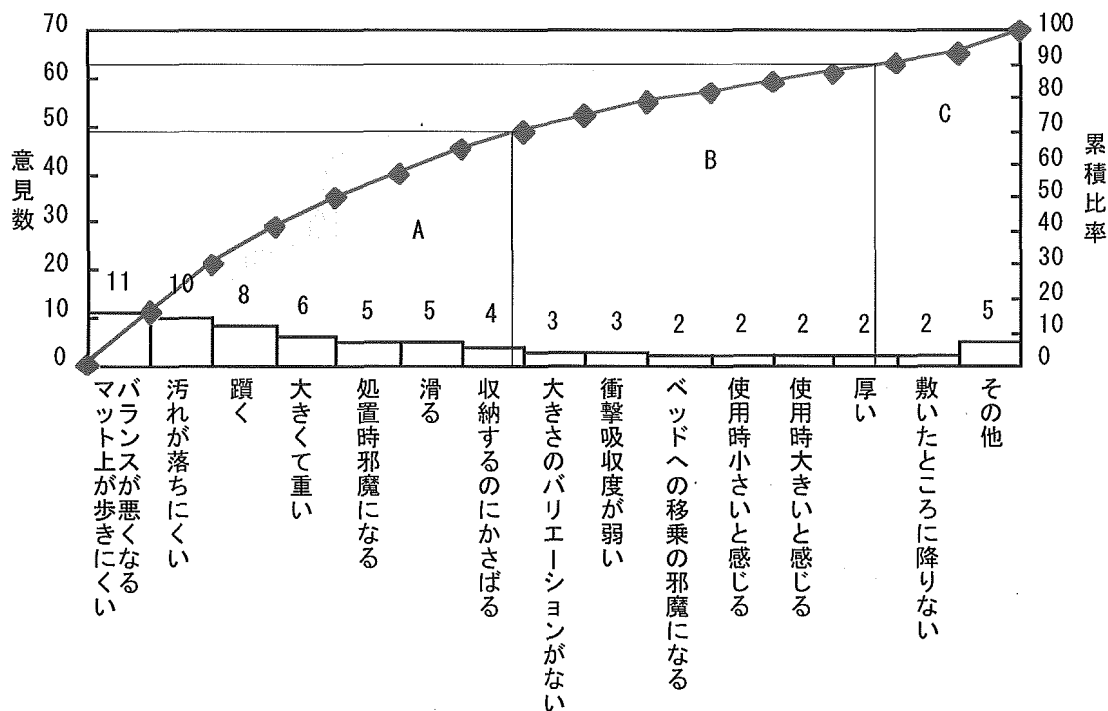
衝撃吸収マットの使用状況

使用状況	回答数	回答割合
現在使っている	58	19.7%
過去に使ったことがある	28	9.5%
使ったことがない	194	66.0%
不明	14	4.8%
計	294	100.0%

衝撃吸収マットの性能評価で重視する点 (n=246)



衝撃吸収マットに対する不満・改善要求意見 (n=70)



資料 3-2 衝撃吸収マットの評価軸と求められる性能

衝撃吸収マット	
評価軸	求められる性能
設置・収納のしやすさ	<input type="checkbox"/> 衝撃吸収性能を損ねることなく、軽量化がはかられている <input type="checkbox"/> コンパクトに折りたたむことができる <input type="checkbox"/> 持ちやすい <input type="checkbox"/> ベッドまわりに収納できる
安全性への配慮	<input type="checkbox"/> 衝撃吸収性能を損ねることなく、可能な限りマットが薄いものとなっている <input type="checkbox"/> マットのエッジ部分に躓きにくい加工がされている <input type="checkbox"/> マットの上で滑らないような素材・加工がされていること
メンテナンスへの配慮	<input type="checkbox"/> 汚れが付きにくい <input type="checkbox"/> 汚れが目立たない色や素材となっている <input type="checkbox"/> 汚れが落ちやすい <input type="checkbox"/> 洗淨ができる